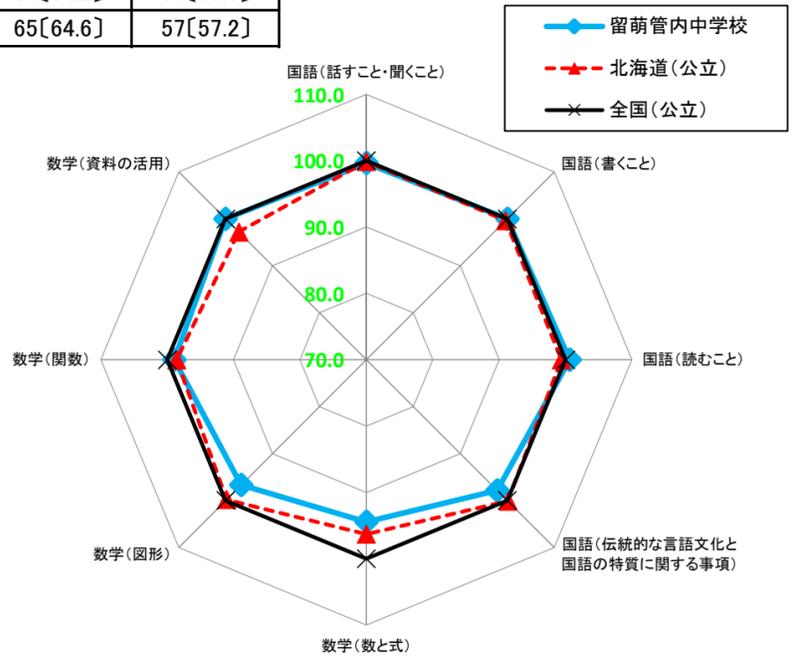
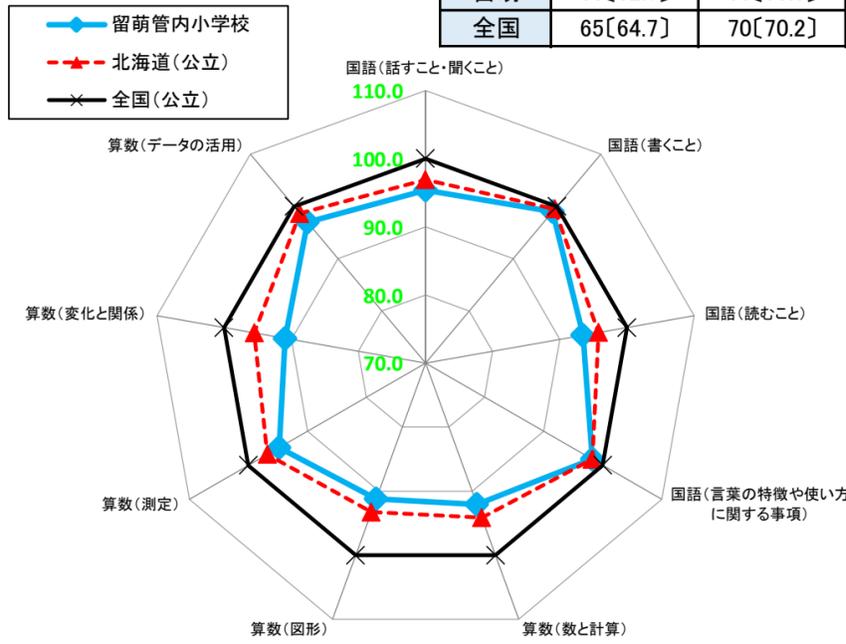


留萌の状況及び学力向上策 (小学校数: 17校、児童数: 242人) (中学校数: 11校、生徒数: 254人)

小学校 【教科全体の状況】

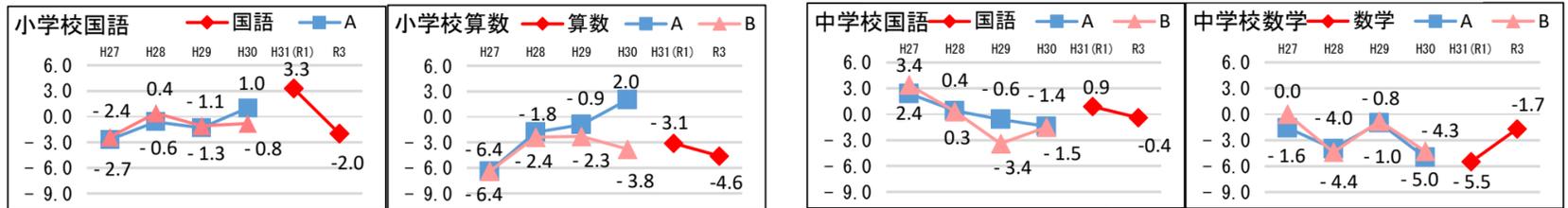
平均正答率	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
留萌	63[62.7]	66[65.6]	64[64.2]	56[55.5]
全国	65[64.7]	70[70.2]	65[64.6]	57[57.2]

中学校



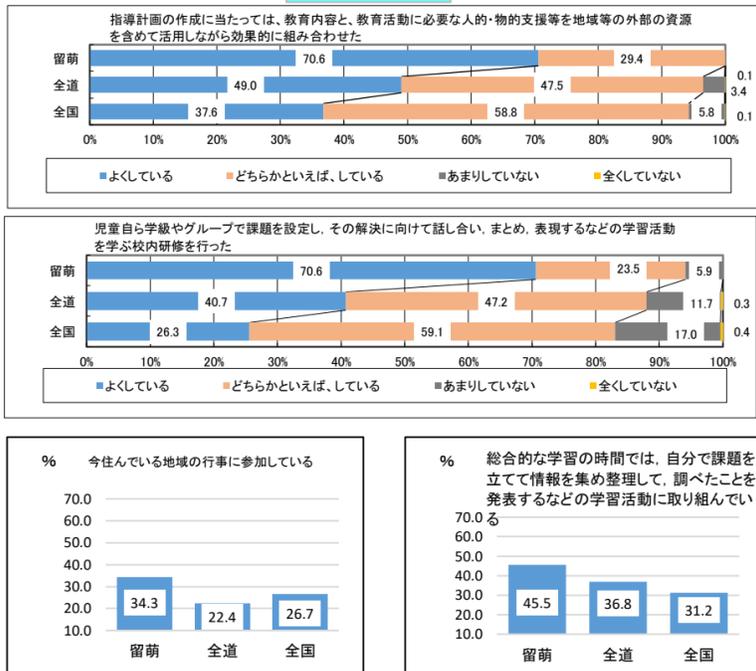
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの (管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

【平均正答率の推移】 「管内の平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の経年変化

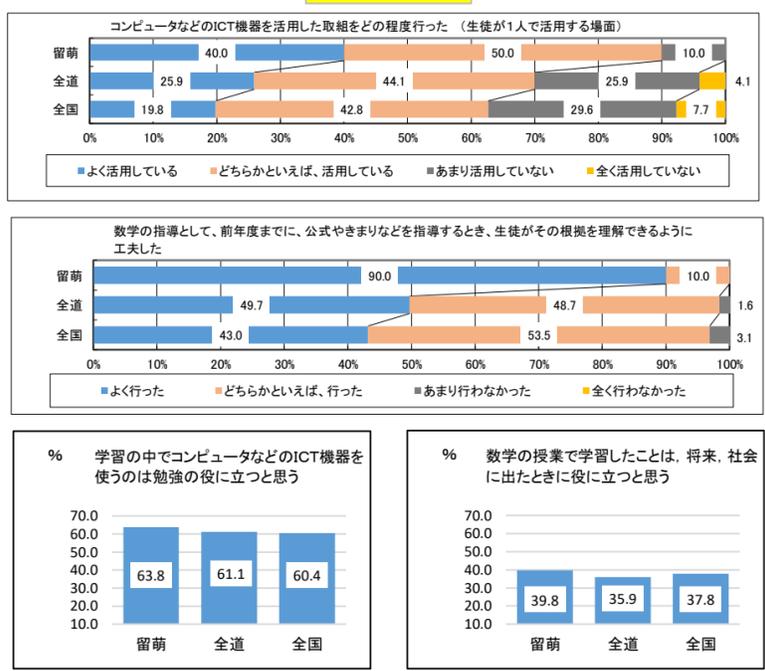


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

管内の多くの小学校において、指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的支援等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせるなど、地域と連携した教育活動の工夫を行ったことにより、今住んでいる地域の行事に参加すると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を実施するなど、授業改善を図ったことにより、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

管内の多くの中学校において、授業改善を行うに当たり、コンピュータなどのICT機器を生徒が1人で活用する場面を位置付けたことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒が全国を上回ったと考えられる。

数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒が全国を上回ったと考えられる。

【留萌の学力向上策】 については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

留萌管内における学力向上の取組

1. 管内課題と重点的な改善策

(1)教育活動の質の向上

- 検証改善サイクルに基づいた学校改善の取組や組織的な取組について全教職員の共通理解が十分に図られておらず、教育活動の質の向上につなげていない。
- 令和3年度の学力調査の結果分析や各学校における取組事例を管内で普及するなど、全教職員によるカリキュラム・マネジメントの取組や検証改善サイクルの取組を管内全ての学校で進めるとともに、義務教育指導監と指導主事が連携し、各学校において学校改善が推進するよう継続的に指導助言する。

(2)授業改善の推進

- 学力調査の算数・数学において、平均正答率が全国平均を大きく下回っていることから、下位層への手立て及びICTを活用した主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善、子どもたちが安心して学べる環境づくりを一層進めていく必要がある。
- 令和3年度の学力調査及び質問紙調査結果を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や各学校が取り組む下位層への手立てに向けた指導助言を行うとともに、一人一台端末を活用した指導改善を義務教育指導監と指導主事が連携し、進める。

(3)望ましい学習習慣・生活習慣の定着

- 学習習慣の確立に課題が見られることから、学校が家庭や地域と連携した実効性のある望ましい学習習慣・生活習慣の定着を図る取組を進める必要がある。
- 令和3年度の質問紙調査の結果分析や各学校で設定した下位層への手立て及び学習習慣の確立に向けた取組の推進に向けて、学校・家庭・地域が連携し、学習環境を構築するなど、学習習慣定着に向けた取組を進める。

2. 具体的な取組

月	(1) 教育活動の質の向上	(2) 授業改善の推進	(3) 望ましい学習習慣・生活習慣の定着
10	・教職員定数ヒアリング	・管内研究団体等での指導助言 ・チャレンジテスト1学期末問題の分析 ・留萌管内教育研究所との連携研修	・管内研究団体等での指導助言
11	・地域協議会（学校力） ・地域連携研修（学校力：留萌小）	・地域協議会（学校力） ・チャレンジテスト2学期末問題の活用 ・【局独自】初任段階教員（1～5年次）対象 オンライン研修	・地域協議会（学校力） ・地域連携研修（学校力：留萌小）
12	・教育長会議 ・校長会理事研（指導監） ・教頭会理事研（支援課長）	・教育長会議	・教育長会議
1	・教育委員会訪問 ・地域協議会（学校力）	・教育委員会訪問 ・チャレンジテスト2学期末問題の分析 ・地域協議会（学校力）	・教育委員会訪問 ・地域協議会（学校力）
2	・校長会理事研（指導監）		
3	・教育長会議 ・教頭会理事研（支援課長）		・教育長会議

3. 取組の評価(管内教育推進の総括評価)※空欄部分においては、3月末に評価

(1)教育活動の質の向上	(2)授業改善の推進	(3)望ましい学習習慣・生活習慣の定着
①「教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」 ・目標 小… 80.0%、中… 80.0% ・達成値 小… %、中… %	①「主体的・対話的で深い学びの過程で、ICTを効果的に活用するなど、学びの質を高める取組」 ・目標 小…100.0%、中…100.0% ・達成値 小… %、中… %	①「家庭や地域との連携による望ましい学習習慣・生活習慣の定着に向けた取組の充実」 ・目標 小… 100.0%、中… 100.0% ・達成値 小… %、中… %
②「全ての教職員の参加による「カリキュラム・マネジメント」の推進」 ・目標 小… 100.0%、中… 100.0% ・達成値 小… %、中… %	②「「自己存在感」、「共感的な人間関係」、「自己決定」の3つの視点による授業改善」 ・目標 小…100.0%、中…100.0% ・達成値 小… %、中… %	②「家で自分で計画を立てて勉強をしている」 ・目標 小… 50.0%、中… 50.0% ・達成値 小… %、中… %

4. 改善点

(1) 教育活動の質の向上 ・全教職員によるカリキュラム・マネジメントや検証改善サイクルの取組がとぎれることのないよう指導助言する。	(2) 授業改善の推進 ・下位層への手立てや一人一台端末を活用を進めるとともに自己肯定感を高められるような学習活動を設定するなど授業改善に向けて指導助言する。	(3) 望ましい学習習慣・生活習慣の定着 ・学習習慣の確立に向けて、学校・家庭・地域が連携し、学習環境が構築されるよう指導助言する。
---	--	---